

耐えられない試練はない

コリント人への手紙第一 10章 1-13節

はじめに

今日は、「耐えられない試練はない」というテーマでお話したいと思います。

今日の聖書箇所の中で 13 節はとて有名です。「**あなたがたが経験した試練はみな、人の知らないものではありません。神は真実な方です。あなたがたを耐えられない試練にあわせることはなさいません。むしろ、耐えられるように、試練とともに脱出の道も備えてくださいます**」。この御言葉は、未信者の方々にもよく知られていて、クリスチャンに限らず多くの人に慰めと希望を与えてきた御言葉です。

しかし今日は、この御言葉がどのような文脈の中で語られたものなのかを考えながら、改めてこの御言葉から教えられたいと思います。

使徒パウロは、1 節で「**兄弟たち。あなたがたには知らずにいてほしくありません**」と言っています。パウロは今日の聖書箇所、クリスチャンたちに知らずにいてほしくないこと、つまりどうしても知っておいてほしいことを語っているのです。

それは、旧約聖書に出てくるイスラエルの民の失敗です。イスラエルの民の失敗は、現代に生きる私たちクリスチャンを「**戒める実例**」であり、「**教訓**」だからです。私たちは、イスラエルの民の失敗から、自分のクリスチャンとしてのあり方を学ばなければなりません。

1. 「私たちの先祖」としてのイスラエルの民

1 節でパウロは、イスラエルの民を「**私たちの先祖**」と呼んでいます。コリント教会には、ユダヤ人だけでなく異邦人も沢山いました。しかし、それでもイスラエルの民は、彼らの「先祖」なのです。つまり、イスラエルの民は、すべてのクリスチャンの「先祖」なのです。イスラエルの民は、旧約時代の「神の民」で、クリスチャンは、新約時代の「神の民」です。イスラエルの民も、クリスチャンも、キリストを信じる「神の民」です。イスラエルの民は、未来にキリストを仰ぎ見、クリスチャンは過去にキリストを仰ぎ見ます。

今日の聖書箇所でパウロは、イスラエルの民も、バプテスマ（洗礼）に与かり、聖餐に与かっていたのだと言います。イスラエルの民が紅海の海を渡った出来事は「洗礼」を表し、天から降るマナを食べ、岩から出る水を飲んだ出来事は「聖餐」を表すと言うのです。

イスラエルの民は、エジプトの奴隷から救われ、紅海の海を渡って洗礼を受け、約束の地に向かう荒野の旅で、マナと岩の水によって聖餐に与かっていたのだと言うのです。

同じように私たちクリスチャンも、罪の奴隷から救われ、キリストを信じて洗礼を受け、天国に向かう地上の生涯で、パンとぶどう酒による聖餐に与かって生きるのです。

その意味で、イスラエルの民は、まさに私たちクリスチャンの「先祖」であり、私たちはイスラエルの民から「神の民」としてのあり方を学ばなければなりません。

2. 私たちへの戒め

私たちが学ばなければならないこと、パウロがどうしても私たちに知っておいてほしいことは、5節にあるように、洗礼を受け、聖餐に与かっていたイスラエルの民の大部分が、約束の地に向かう荒野の旅の途中で、滅ぼされてしまったという事実です。

このことが現代に生きる私たちクリスチャンへの戒めであり、教訓なのです。つまり、洗礼を受け、聖餐に与かっているすべての人が、私たちの約束の地である天国に必ずしも行けるわけではない、ある人たちは、天国に向かう旅の途中で、信仰から迷い出てしまう、その危険性があるのだということを、私たちは知るべきなのです。

パウロ自身も、先週の聖書箇所にあったように、「**自分自身が失格者にならないように**」という緊張感を持っていました。

パウロは12節で、「**立っていると思う者は、倒れないように気をつけなさい**」と言っています。自分は大丈夫、自分は信仰から迷い出ることはない、自分は救われているから自動的に天国に行ける、そう思っている人ほど危険だとパウロは言うのです。

天国に向かう地上の旅の途中には、様々な試練が待っています。イスラエルの民は、その試練の中で、罪の誘惑に陥って滅ぼされていきました。ここでは四つの罪が紹介されています。

一つは、「**偶像礼拝**」です。彼らは金の子牛を作って、目に見えない神様を、目に見える形に表そうとしました。私たちの神様は目には見えません。私たちは試練の中で不安になります。そのため、私たちは目に見える物に頼ろうとするのです。

日本では、天皇を神とする時代もありました。仏像を神とすることもあります。しかし現代では、人生の成功やお金なども偶像になります。また芸能人などのアイドルも偶像になります。偶像は、英語で「idol」です。私たちのアイドルこそ、私たちの偶像です。私たちのアイドルは何でしょうか？人生の成功でしょうか、お金でしょうか、子どもでしょうか、異性でしょうか。私たちの心の中にあるアイドルこそ、私たちを滅ぼしていきます。

二つ目の罪は、「**淫らなこと**」です。これは性的な罪です。結婚関係以外での性的な関係です。私たちは試練の中で寂しさや孤独を味わいます。その時に異性を求め、性的な関係に足を踏み入れていくのです。現代の若者を取り巻く性的な乱れ、婚前交渉の常識化は非常に危険です。婚前交渉は当たり前、それを経験していないことは異常という風潮です。ドラマや映画では、不倫や浮気が盛んに取り上げられています。私たちの社会は、性的な誘

惑で満ちています。この誘惑は、クリスチャンの中にも簡単に入り込めます。私たちは、この誘惑から自分の身を守り、特に若者たちを守らなければなりません。

三つ目の罪は、「**キリストを試みること**」です。「キリストを試みる」とは、キリストを疑うということです。私たちの信仰生活は決して平坦ではありません。私たちはしばしば、自分の信仰を疑うようになります。神様は本当にいるのか、神様は本当に私を愛しているのか、神様が私を本当に愛しているのなら、なぜこのような悲しみや苦しみがあるのか、そのような思いが生まれます。そしてそれが高じると、私は神様に愛されていない、神様などいない、そう言って信仰から離れていく人が多くいます。

四つ目の罪は、「**不平を言うこと**」です。不平不満は私たちを滅ぼします。不平不満が心を支配すると、私たちの心は怒りと憎しみ、妬みに満ちて、どんどんすさんでいき、心が神様から離れていきます。私たちの心は、神様への感謝と賛美で満たさなければなりません。

私たちクリスチャンの天国への旅路は、様々な誘惑と危険で満ちています。イスラエルの民の大部分の人は、荒野の旅の中で、これらの罪の誘惑に陥って、信仰から迷い出て滅ぼされてしまったのです。彼らは私たちと同じように、洗礼を受け、聖餐の恵みに与かっている人々でした。私たちは、イスラエルの民の姿を戒めと教訓として、私たちも同じような失敗に陥らないようにしなければなりません。

3. 試練の中で神の真実を信じる

ではどうすれば私たちは、天国まで信仰を全うすることができるのでしょうか？それは、13節にあるように、「**神の真実**」を信じ続けることです。

神様は、イスラエルの民をエジプトの奴隷から救い出したように、私たちを罪の奴隷から救い出してくださいました。そして今、私たちは天国への旅路を歩んでいます。

しかし神様は、この天国までの旅路の中で、私たちをしばしば試練に遭わせます。神様は、イスラエルの民のことも、荒野の旅で試練に遭わせました。それは、彼らが神の命令を守るかどうか、彼らの心のうちにあるものを知るためであり、彼らを訓練するためでした。特に、マナで彼らを養ったのは、「**人はパンだけで生きるのではなく、人は主の口から出るすべてのことばで生きる**」(申命記 8:3)ということをつかせるためだったのです。

神様は、私たちの天国までの旅路を、決して平坦な道ではいかせません。試練を通して私たちを訓練し、私たちを成長させようとします。

神様が私たちに与える試練は、決して耐えられないものではありません。必ず「**脱出の道**」も備えてくださるのです。神様が私たちに与えてくださる脱出の道は、様々です。試練の

状況を軽くしてくださることもありますし、試練の中で私たちの心を変えて、たとえ状況が変わらなくても苦しみや悲しみが軽くなることもあります。また苦しみや悲しみから解放するために私たちを天国へと召してくださることもあります。

いずれにしても神様は、決して私たちが耐えられないような試練には遭わせず、必ず脱出の道を備えてくださる、これが「神の真実」です。私たちは、地上の生涯の最後まで、天国まで、この「神の真実」を信じ続けていかなければなりません。

この「神の真実」を見失うと、私たちは罪の誘惑に陥って、偶像礼拝や性的な罪に誘われ、キリストを試み、不平不満に心を支配されて、自らを滅ぼしていくのです。

おわりに

しかし私たちが最後に覚えないことは、神様が耐えられない試練を与えず、脱出の道を備えてくださるのは、「神の民」に対してであるということです。

神様が試練を与えるのは、奴隷から救い出し、約束の地に向かう「神の民」に対してです。私たちクリスチャンは、悔い改めてイエス・キリストを信じて、罪の奴隷から救い出され、天国への道を歩んでいます。神様は、その天国への道の中で、私たちに試練を与え、私たちを訓練し、成長させます。そしてやがて天国へと迎え入れてくださるのです。

私たちクリスチャンの国籍は、天国にあります（ピリピ 3：20）。私たちの故郷は「天国」です（ヘブル 11：16）。この天国に至るまで、地上の生涯の最後まで、私たちは「神の真実」を信じ続けていかなければなりません。

私たちは地上の生涯を、罪の奴隷として生きるか、それとも天国への旅人として生きるか、そのどちらかしかありません。天国への道は、いつでも誰にでも開かれています。イエス・キリストを神と信じて、イエス・キリストに人生を委ね、天国への旅人として生きる決心をすることです。天国への旅人には、「神の真実」が約束されています。神様は決して耐えられない試練を与えず、脱出の道を備えてくださるという約束です。

私たちは、地上の生涯の最後まで、「神の真実」を信じ続け、神様の訓練に服し、絶えず成長して、天国の希望を心に抱いて歩いていきましょう。